

2009 年度 国際交流報告

薬学研究科国際交流委員長 教授 藤井 聡

平成 21 年度は交流実績としてはアメリカ合衆国の南カリフォルニア大学 (University of Southern California, USC) との間では例年通りに学生の派遣を行ったほか、教員の派遣も行いました。昨年度に学生の派遣を実現できなかったシドニー大学との間では、シドニー大学の国際交流体制の再構築が行われたとの経緯があり、交流の再開にむけ尾関 哲也教授が 2 月に派遣される予定です。

USC 薬学部への学生派遣 (臨床薬学研修) は例年同様に 8 月末よりおよそ 2 週間 (8 月 31 日から 9 月 12 日) の日程で実施されました。プログラム内容は導入講義を受けた後、USC の薬学部学生 (4 年生) の実習研修に組み込んでもらい、例年どおり大学や地域の病院の薬剤部、薬局等の研修、見学など多彩な活動を行いました。本学からは博士前期課程の大学院生が参加しました。詳細は学生の報告書にありますが、米国の薬学生や薬剤師の豊富な実地的知識、調剤はテクニシャンが行い薬剤師は監査をする体制、薬剤師は病棟の回診に同行し薬物治療の専門家として積極的に発言し討論に加わることなどに強い刺激を受けたようです。この研修には国内他大学の学生も参加しており、これらの参加者との交流も貴重な経験となりました。本年度は研修期間中に本学の矢 進 准教授 (細胞分子薬効解析学) が USC を訪問し、研修指導に部分的にたずさわりながら、新しい日本の教育制度での 5-6 年生の実務に関連した教育プログラムの充実のための情報収集や意見交換を行いました。

また、平成 21 年度は 9 月下旬より USC から 2 名の薬学部学生を受け入れ 2 ヶ月にわたり薬学実習を行いました。この実習はアメリカでの 4 年生の実習のひとつとして認められています。実習中は名市大病院の薬局のほかに、薬友会の関係各位のご協力により日本での現場を学ぶ機会を提供することができました。

従来、短期研修の場合は、外資系企業への就職や研究目的の留学等に比べ、語学力もあまり求められない傾向がありました。しかし最近は短期訪問の国際交流をする場合でも、物見遊山の訪問は敬遠され、学生、大学院生が十分な語学力をもって訪問し、成果を挙げ成長することが受け入れ先からも期待されるようになっていきます。今後、TOEFL や IELTS などの資格試験で一定のスコア以上をあげることが求められる場合も出てくると予想されます。幸い、昨年度に小型語学研修機器を 5 台導入することができ、本年度は出発前に国際交流委員会で英語の特訓を行い、各自十分な準備をして出発することが出来ました (写真)。

すでにご存知の方も多いと思いますが、滝子 (山の畑) キャンパスでは、2008 年に国際交流推進センターが本格的に活動を開始し (センター長 今川 正良 薬学研究科教授)、2009 年度は外国語の習得や、留学のための環境づくりに様々な活動を行っています。薬学部の国際交流についても 11 月 1 日号の国際交流推進センターニュースレターに詳しく紹介されました。ぜひともホームページ <http://www.nagoya-cu.ac.jp/koryucenter/index/html> をご覧ください。

昨年度ほどではありませんが USC へ学生を派遣する 8 月末は、まだまだ航空旅費が高く、学生の負担増が懸念される時期です。幸いにも、本年度も USC 派遣学生に対し名市大 や薬学部の同窓会である薬友会から旅費の援助をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げますとともに、今後も学生が充実した学生生活を送り国際的センスをもって成長することができますよう関係各位のご協力とご支援を心よりお願いする次第です。

